



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記 28・10～22

天からの梯子

まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。

創世記 28・16

目標

共におられる神に目を向けて生きる。

10月4日（日）

聖書
聖句

創世記 28・10～22

まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。 16節

「えーっ、こんな所に教会があったんだー」と、今まで何回もその道を通っていても見えていなかったということがあります。心の目が開いていなかったのですね。ヤコブもそうでした。「えーっ、ここに神様が共にいてくださったのに、わたしは知らなかった」と叫んだのでした。それは一番大切なお方、共にいてくださる神様に、心の目が向けられた最高に幸せな瞬間でした。今、この神様は、信じるわたしとも共にいてくださることを知っていますか？

いの
祈り

天のお父様、肉眼では見えないあなたを、心の目を開いて、いつもしっかりみなぎ毎日歩いていきますように。

10月5日（月）

聖書
聖句

創世記 28・10～11

一つの所に着いた時、日が暮れたので、そこに一夜を過ごし、その所の石を取ってまくらとし、そこに伏して寝た。 11節

あなたも一人旅をしたことがありますか？ まだないでしょうね。子どもだけで電車に乗ってという旅行はあるかな？ このヤコブは全くひとりぼっち、しかも初めて家から出たのです。レンズ豆の時だけでなく、そのあともう一度、父と兄をだまして「祝福」を奪ってしまい、もう家にいられなくて旅に出ました。夜になり冷たい石をまくらにして、どんなに心細かったことでしょう。一つの所に着いた時、実はそこで神様がヤコブを待っていました！

いの
祈り

天のお父様、人がたったひとりである時、あなたが近づいてくださるとわかって、ひとりでも恐れありません。

10月6日（火）

聖書
聖句

創世記 28・12

時に彼は夢をみた。 12節

「きょうはどんな夢が見えるのかな」と毎晩、楽しみに寝る人もあるそうです。あなたもよく夢を見ますか？ イエス様の夢だと最高ですね！ でも、追いかける夢とか、怖い夢とかはいやですね。ヤコブはここで、神様の夢を見たのです！ 一つのはしがが地の上に立っています。そのてっぺんは天に達しています。そしてそのはしごを、神の使いたちが上ったり、下ったりしているではありませんか。夢を見させてくださるのも、実は神様なのでしょう。

いの
祈り

天のお父様、眠っている時に夢を見るのも不思議です。あなたは夢によっても正しく導いてくださり感謝です。

10月7日（水）



創世記 28・13～15

わたしはあなたの父アブラハムの神、
イサクの神、主である。 13節

次の瞬間です！ 神様がヤコブのそばに
立って言われます。「わたしはあなたの父ア
ブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが
伏している地を、あなたと子孫とに与えよう」
と。そして、子孫が地のチリのように多くなっ
て、まわりの人たちはヤコブと子孫とによって
祝福されること。何より、神様はヤコブと共に
いて、ヤコブがどこに行くとしても、彼を守り、
この地に連れ帰る、そして、決してヤコブを捨
てず、語ったことを言うと言われます。

いの祈り 天のお父様、ヤコブのための何とすばらし
い約束でしょう！ これはまたあなたを信じ
る私のためでもあります。

10月8日（木）



創世記 28・16～17

これはなんという恐るべき所だろ
う。これは神の家である。これは天の
門だ。 17節

眠りからさめて、神様とお会いしていた夢か
らもさめて、ヤコブは思わず叫びました、「まこ
とに主がこの所におられるのに、わたしは知ら
なかった」。初めて家を離れ、なつかしい家族や、
近所の人たちからも遠く離れて、たったひとり
になっちゃって…と、とても淋しい悲しい思い
をしていたヤコブには、大きな驚きであり、喜
びだったのですね。これは神の家（ベテル）だ、
天の門だと心がひきしまる思いもしました。も
うひとりではありません。

いの祈り 天のお父様、ヤコブは初めてハッキリとあ
なたを見て、生まれ変わりました。わたし
も心からあなたを信じます。

10月9日（金）



創世記 28・18～19

その所の名をベテルと名づけた。 19節

あなたにとっても「ここ！」という記念の場
所がありますか？ もちろん、生まれた所はそ
うですよ。ヤコブにとって、ここ、ベテル（
神の家）と名づけた場所は、記念の場所となり
ました。初めて、神様とお出会った忘れるこ
とのできない場所でした。つまり、新しく生
まれ変わって、神様と共に歩きはじめた所です。
身体が生まれた所以上に、魂が新しく生ま
れた所、罪を悔い改めて、ゆるされ神の子と
され、水のバプテスマを受ける所（母教会）は、
もっと大きな記念の場所ですね！

いの祈り 天のお父様、わたしも本気であなたとお会
いして、水のバプテスマを受けて、記念の場
所ベテルをもちたいです。

10月10日（土）



創世記 28・20～22

安らかに父の家に帰らせてくださる
なら、主をわたしの神といたしまし
う。 21節

ヤコブは誓いを立てて、神様にお祈りします。
が、たくさんの条件付きのお祈りです。「神が
わたしと共にいてくださるなら」「わたしの行く
この道でわたしを守ってくださるなら」「食べる
パンと着る着物をくださるなら」「安らかに父の
家に帰らせてくださるなら」主をわたしの神と
いたしましうとね。そして、「神がくださるす
べての物の十分の一をわたしは必ずあなたに
ささげます」と誓いを立てました。押しのける
ものヤコブの性質がのぞいています。

いの祈り 天のお父様、わたしの祈りも、もしかし
たら条件付きのお祈りになっていましたら、
おゆるしてください。改めます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

創世記32・22～32

ヤボクの渡し

生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。

ガラテヤ 2・20

目標

自我が砕かれ、キリストにある勝利をもって生きる。

10月11日(日)

聖書
聖句

創世記32・22～32

生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。

ガラテヤ 2・20

ここにはもう一つの、ヤコブの記念の場所があります。ペニエル(神の顔)という所です。そこはヤボクの渡しのカタワラです。押しのける者ヤコブは、おじさんのラバンの家で20年も過ごして、二人の妻と二人のつかえめと十一人の子どもが与えられ、いよいよベテルへ帰ろうとします。ただ心にひっかかるのは、いえ恐れるのは、だましてきた兄エサウでした。その恐怖の中で、主の使いと取っ組み合いをして、自我がついに砕かれて、きよいヤコブへと変わります。

祈り

天のお父様、わたしの内の自我も砕いてください。自我は十字架につけ、心の中にイエス様がお宿りください。

10月12日(月)

聖書
聖句

創世記32・3～8

ヤコブはセイルの地、エドムの野に住む兄エサウのもとに、さきだって使者をつかわした。 3節

「父イサクが死ぬ日も遠くない。その日には弟ヤコブを殺そう」とまで思っていたエサウに、これから会おうとするのですから、ヤコブの心の恐れはそれはもう大変でした。ヤコブは使いをつかわし、兄エサウの様子を知ろうとします。使者たちは帰ってきて言います、「彼もまたあなたを迎えようと四百人を率いてきます」と。「四百人か!」とヤコブはますます恐れます。そしてヤコブは、民と家畜とを二つの組に分けたのです。あがくヤコブです。

祈り

天のお父様、ヤコブが昔の罪のゆえに、心に恐れが一杯になっているのがよくわかります。罪は犯したくないです。

10月13日(火)

聖書
聖句

創世記32・9～12

あなたがしもべに施されたすべての恵みとまことをわたしは受けるに足りない者です。 10節

恐れの中にも、いろいろと工夫をしようとするヤコブが、ここでは、神様に祈っています。「苦しい時、困った時の神だのみ式」ですね。「父アブラハムの神、父イサクの神よ」と語りかけ、神様の約束を持ち出して祈ります。そのような中に、ヤコブの心は少しずつ砕かれています。これまで神様がヤコブにくださったすべての恵みとまことを、ヤコブは「受けるに足りない者です」とへりくだっています。そして兄エサウから救ってくださいと祈ります。

祈り

天のお父様、追いつめられたヤコブの祈りは「苦しい時の神だのみ」ですが、それでも祈ることが大切です。

10月14日（水）

聖書
聖句

創世記32・13～21

こうして贈り物は彼に先立って渡り、
彼はその夜、宿営にやどった。21節

お祈りはしたものの、やっぱり、「兄エサウの心をなだめるためには、何かしなければ」と、また「押しのける者、つっぱるヤコブ」は考えるのです。「そうだ、贈り物を用意しよう」と！選んだ家畜の数はかなりの数です。しかもさらに工夫したのは、この贈り物を、三つの群れに分け、第一と第二、第二と第三は、間にへだたりをおいて、贈るようにとの命令でした。ヤコブはこれらの贈り物が行ってしまってから、また、その夜は宿営にやどりしました。

いのちの祈り 天のお父様、お祈りをしたにもかかわらず、まだヤコブは自分の考え、思いで行動します。自我の力は強いです。

10月15日（木）

聖書
聖句

創世記32・22～24

ヤコブはひとりあとに残ったが、ひとりの人が、夜明けまで彼と組打ちした。24節

その夜、ヤコブは起きて、ふたりの妻と、ふたりのつかえめと、十一人の子どもたちを連れて、ヤボクの川の渡しをわたりました。彼らと、彼の持ち物を渡らせました。それでもまだヤコブはひとりあとに残っていたのです。するとどうでしょう。どこからともなくひとりの人がヤコブに近づき、ヤコブと組み打ちをしはじめました。それは夜明けまでも続いたのです。ここでも、ヤコブがひとりあとに残っている時、これが神様にとってチャンス！でした。

いのちの祈り 天のお父様、あなたはいつでも、人がひとりでいる時、現れてくださいます。ひとりで、あなたを求める時をつくります。

10月16日（金）

聖書
聖句

創世記32・25～29

わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません。26節

すもうごっこをして遊んだりしますか？ここは、「ごっこ」ではないのです。ヤコブと主の使いとの真剣勝負ですね！

その人はヤコブに勝てないとわかってヤコブのものつがいにさわたったのでヤコブのものつがいが、はずれてしまいました！「夜が明けるから去らせてください」とその人が言うので、ヤコブは言います、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」と。ヤコブ（押しのける者）はイスラエル（神の皇太子）となりました。

いのちの祈り 天のお父様、ヤコブはあなたの祝福を求めて求めて、ついに祝福されました。わたしもあなたの祝福を第一に求めます。

10月17日（土）

聖書
聖句

創世記32・30～32

そこでヤコブはその所の名をペニエルと名づけて言った、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている。30節

「その所で彼を祝福した」—— ついにヤコブは神の祝福を自分のものとししました。自我が砕かれて、全く神のものとなされ、神に仕え従いぬいて、用いられる祝福の基とされました。ヤコブは「顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」と言って、その所の名を「ペニエル（神の顔）」と名づけました。大切な記念の場所となりました。わたしたちもペニエルが与えられますように！自我をキリストと共に十字架につけてしまい、心の内にキリストが生きてくださるように！

いのちの祈り 天のお父様、内にイエス様が全面的に生きてくださって初めて、本当にすべてに勝利して歩めるので感謝です。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マルコ 7・14～23

人を汚す罪
人から出て来るもの、それが人を
けがすのである。

マルコ 7・20

目標

人を汚す内面からの罪に気づき、
十字架による赦しときよめを受
ける。

10月18日(日)

聖書
聖句

マルコ 7・14～23

これらの悪はすべて内部から出てき
て、人をけがすのである。 23節

今週からは、「イエス様の教えとお働き」に
ついて学ぶことにしましょう。あなたにいろい
ろと教えてくれる人たちがいますよね。お家の
人たち、学校の先生たち、上級生たち、塾の
先生たち、友だちも。教えてもらって学ぶこと
はとても大切です。その中でも、イエス様の教え
を聖書から学ぶことは超大切！一番大切な事
を教えてください。「人をけがす罪」の
教えなんてイエス様だけが教えてくださる事
です。じっくり学びましょう。

いの
祈り

天のお父様、あまり聞きたくないと思
う教えこそ、とても大切なのだと思って、
しっかり学んでいきます。

10月19日(月)

聖書
聖句

マルコ 7・14～19

イエスはこうに、どんな食物で
もきよいものとされた。 19節

「すべて外から人の中にはいって、人をけが
しうるものはない」(15)。「それは人の心の中
にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外
に出て行くだけである。(19)。パリサイ人や律法
学者たちは、手を洗うとか器を洗うとか、外側ば
かり気にする昔の人の言い伝えばかり
を大事にしていました。彼らが弟子たちを非難
した時、イエス様は、人をけがすものは人の中
から出てくると言われ、外から入るどんな食物
も腹に入り出て行くきよいものだと言われまし
た。

いの
祈り

天のお父様、あなたがくださるどんな食物
も私の心を汚したりしません。心から
感謝して何でもいただきます。

10月20日(火)

聖書
聖句

マルコ 7・14～23

人から出て来るもの、それが人をけ
がすのである。 20節

「すなわち内部から、人の心の中から、悪い
思いが出て来る」(21)と続いています。多くの
人々は、外側ばかり飾っています。頭のてっぺ
んからつま先までね。かつら、化粧、イヤリン
グ、マニキュア、香水、ネックレス、ブレスレ
ット、アンクレット、指輪、数限りなく身につけ
外側にお金をかけます。でも神様が一番気にし
ておられるのは、私たちの「内側」「内部」「心
の中」です。そこから悪い思いが出て来て、人を
けがすとは大変な事です

いの
祈り

天のお父様、どんなに外側をきらびやか
に飾っても、内部から、心の中から悪い
思いが出て来るのは本当です。

10月21日(水)



マルコ 7・21～23

盗み、・・・貪欲、

21～22節

「蛭にふたりの娘があつて、『与えよ、与えよ』という」(箴言30・15)。蛭という気持ちの悪い虫を見たことがありますか？人にペタッとくっついて血を吸うのです！もっと欲しい、もっと欲しいという、これを貪欲と言います。欲張りですね。その思いが満タンになってしまふと、ついつい手が伸びて、盗みという罪を犯してしまいます。「万引きは罪です」と貼り紙がしてありますね。貪欲は恐ろしい盗みの罪を引き起こします。よくよく私の心が守られますように。

いのちの祈り 天のお父様、心の思いが外に出て行くと知って 厳かです。十字架を仰いで心がよくされますように。

10月22日(木)



マルコ 7・21～23

欺き、・・・妬み、

22節

エイプリル・フールは4月1日のことで、冗談にうそを言えるという、ちょっと間違えば困った事になるかもしれないような日です！うそを言う、ごまかしを言う、だますといったことは、相手をバカにするような事になる罪なのです。「妬み」って何でしょう？これは私たちの心の中のことで、人には見えません。成績のいい子とか、お金持ちの子とか、ちょっときれいな子とか、自分より上の子に対して、一緒に喜べない貧しい、うらやましがかる心です。

いのちの祈り 天のお父様、人は欺けたとしてもあなたを欺くことはできません。妬みの心はどうにもできません。助けてください。

10月23日(金)



マルコ 7・21～23

高慢、愚痴。

22節

「どう、ボクってなかなかやれるでしょ！」
「ね、私ほど頭のいい子は他にいないわよ！」とか、自慢高慢は神様の嫌いなものです。高ぶる者を退けられる神様なのです。「愚痴」とは？「どうしてこうしてくれないの、ああしてくれないの、あの人にはいつも困ってるわ、何とかして欲しいわ」って、いつでもグチグチ文句や不平や不満を心に持ち、口に出すのはけがれですね。少しも感謝ができない心から、愚痴があふれ出ます。周りもいい迷惑です。

いのちの祈り 天のお父様、本当にあなたに嫌われるたくなさんのけがれがあります。人ごとではないことがよくわかります。

10月24日(土)



I ヨハネ 1・5～10

御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。7節

私たちの心の中に、こんなにもたくさんのがれがあつて、イエス様に見られていると思うと恥ずかしい思いでいっぱいですね。本当にゆるしていただき、きよめていただきたいです。「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」とのみ言葉を信じる以外にはありません。思い浮かぶ罪を神様のみ前に、心から悔い改めて、イエス様の十字架の身代わりを信じましょう。「きよめつづける血」を心より信じ、お頼りしましょう。

いのちの祈り 天のお父様、御子イエス様による罪のゆるしと救いを感謝いたします。ゆるされ、きよめられて歩みたいです。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マルコ 9・14～29

不信仰を取り除く

もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。

目標

マルコ 9・23

全能の主に対する信仰を持って祈る者となる。

10月25日（日）

聖書
聖句

マルコ 9・14～29

もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。23節

「あれもできない、これもできない」、「あの人にたのんでもダメ、この人にお願ひしてもやっぱりダメ」というような時があると、「どうしよう?」という事になりますね。ここに出てくるお父さんがそうでした。かわいそうな息子のために、自分も何もしやれないし、イエス様のお弟子さんたちにお願ひしてもダメだったのです。ところが、ただお一人(!)できるお方とお出会いしました。全能の主—そう、何でもおできになるイエス様でしたよ。

いのちの祈り

天のお父様、何でもおできになるイエス様を信じる者には、どんな事でもできることを知り、本当に感謝です。

10月26日（月）

聖書
聖句

マルコ 9・14～18

それでお弟子たちに、この霊を追ひ出してくださるように願ひしましたが、できませんでした。18節

かわいそうなこの息子さんは、この時、何才だったのでしょうか? 小さい時から、物が言えなくなる霊にとりつかれると、どこであつても引き倒され、あわを吹き、歯をくいしばって、からだをこわばらせてしまっていたのです。お父さんは、「あ、イエス様のお弟子さんたちだ、お願ひです、この霊を追ひ出してください」と頼みました。でも、イエス様のお弟子さんたちだって、できなかったのです。お弟子さんたちは恥ずかしかったかな?

いのちの祈り

天のお父様、いくらイエス様のお弟子だといつてもできないことがあるのがわかりました。心から同情します。

10月27日（火）

聖書
聖句

マルコ 9・19

その子をわたしの所に連れてきなさい。19節

そのお父さんの言葉を聞かれたイエス様は、とても嘆いて言われました。「ああ、なんという不信仰な時代であらう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができようか。その子をわたしの所に連れてきなさい」と。イエス様は「不信仰」をお嫌いになるのですね。「信じてほしい」と願っておられるのです。「その子をわたしの所に連れてきなさい」。これが、いつでもどんな時でも一番にすべきことなのです。

いのちの祈り

天のお父様、わたしたちにはとても無理と思える時、そのことをお祈りしてイエス様の所にもっていきます。

10月28日（水）



マルコ 9・20～22

しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください。 22節

人々がその子をイエス様のみもとに連れてくると、大変なことになりました。その子の内にとりついてた霊がイエス様だとわかったと、急にその子をひきつけさせたのです。その子はバタッと倒れ、あわを吹きながらころげまわりました。「いつごろからこんなになったのだ？」とイエス様に尋ねられ、「幼い時からです。霊はこの子を、たびたび火の中、水の中に投げ入れて殺そうとしました。できますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」と父は答えました。

いのり 天のお父様、こんなにもひどい状況だからと、おそろおそろお願いする父親の気持ち、本当によくわかります。

10月29日（木）



マルコ 9・23～24

信じます。不信仰なわたしを、お助けください。 24節

「できますれば」という父親の言葉を聞いて、イエス様は、力強く言われました。「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」と！その子の父親の心に、このイエス様のお言葉がビーンとひびきました。父親はすぐ（！）叫んで言ったのでした。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」とね。「信じなければ、この子は助からない、どうぞわたしの不信仰を取り除いてください、信じます、助けてください」と心から叫んだのです。

いのり 天のお父様、この子が助かるかどうかは父の信仰にかかっていました。わたしも他の人々のために信じていきます。

10月30日（金）



マルコ 9・25～27

イエスが手を取って起されると、その子は立ち上がった。 27節

「けがれた霊よ、わたしがお前に命じる。この子から出て行け！二度と、はいって来るな！」と、イエス様はけがれた霊をしかって言われました。すると霊は叫び声をあげ、またその子を激しく引きつけさせて、ついに出て行ったのです。死人のようになったその子を見て、多くの人は死んだのだと言いましたが、なんと、イエス様がその子の手を取って起されると、その子は立ち上がったではありませんか！父親はきつとうれし涙を流したことでしょう。

いのり 天のお父様、信じる者には、どんな事でもできるのだという事がよくわかり励まされます。信じつづけます。

10月31日（土）



マルコ 9・28～29

このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追い出すことはできない。 29節

初めから終わりまで、ずっとそばで見ていたお弟子さんたちは、イエス様といっしょに家にはいつてから、こっそりとイエス様にお尋ねしました。「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか？」とね。イエス様の返事は、「このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追い出すことはできない」ということでした。「お祈りの力がどんなに大切で、ききめがあるかということ、もっともつと知らなければならぬんだな」と弟子たちは思ったことでしょう。

いのり 天のお父様、あなたの全能の力、何でもおできになる力をあらわしていただけるような信仰と祈りを求めます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マルコ 10・13～16

幼な子のような信仰

だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない。

マルコ 10・15

目標

幼な子のような素直な信仰で信じる者となる。

11月1日(日)

聖書
聖句

マルコ 10・13～16

だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない。 15節

きょうの聖書の箇所を読むと、子どもたちは、うれしくなってしまうですね！「わーい、ぼくたちが主役だー。お手本だー」ってね。イエス様は、子どもたちが大好き、心から喜んで受け入れてくださって、その上、大人たちに、「あなたがたも幼な子のように、素直に神の国を受け入れるのですよ、そうでないとそこにはいることは決してできませんよ」と話されるのです。さてさて、わたしも幼な子です。素直な信仰をもって信じていきます。

いの祈り

天のお父様、幼いことはとてもいいことです。今のうちに、心から素直な信仰をもって神の国を受けられます。

11月2日(月)

聖書
聖句

マルコ 10・13

イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。 13節

この人々は、きっとお母さんたちなのでしょう。昼間はお父さんは仕事で、子どもたちを連れていたのは、お母さんたちでしょう。人々は、一番いいことをしようとしたのです。つまり、イエス様にさわっていただくために、子どもたちをイエス様のみもとに連れてきたのでした。さわっていただくとは、きっとさわって、祝福のお祈りをさせていただこうとしたのでした。イエス様のみもとに連れていかれた子どもは、とっても幸せでした。あなたもそうでしたか？

いの祈り

天のお父様、わたしもイエス様のみもとに連れてきてもらった、幸せな子どものひとりであることを感謝します。

11月3日(火)

聖書
聖句

マルコ 10・13

ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。 13節

にこにこしながら母と子も、にこにこしているイエス様のみもとに集まりました。ところが急に、空気がかわってしまいました。何と、そのように喜んでイエス様に近づこうとする人々をやめさせようとするこわい顔のおじさんたちがいるではありませんか！よくそのおじさんたちを見ると、おやおや、イエス様のお弟子さんたちではありませんか！「やめろ、さ、向こうに行って」なんてね。「イエス様はお疲れなんだから、やかましいよ」と思ったのかな？

いの祈り

天のお父様、イエス様のお弟子さんたちだって、イエス様のお心が全然わかっていなかったのを知りました。

11月4日(水)



マルコ 10・14～15

幼な子らをわたしの所に来るまま
にしておきなさい。止めてはならない。
14節

今も、ここのお弟子さんたちのようなおじさんやおばさん、お兄さんやお姉さんがいるかな？昔は自分たちも幼な子だったのにね！そんなお弟子さんたちを見て、イエス様は「憤られたのです。つまり、怒られたのです！弟子たちに向かって怒って言われました。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない」とね。イエス様の両手は幼な子に向かってオープン！イエス様のやさしいハートは幼子に対してウェルカムです！

いのちの祈り 天のお父様、わたしたち幼な子をいつでも大きな心と両手を広げて受け入れてくださるイエス様が大好きです。

11月5日(木)



マルコ 10・16

そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。
16節

ですから、イエス様のところへ行こうとする幼な子たちを、誰も止めたりやめさせたりすることはできないのです。だってイエス様が「来るままにしておきなさい。止めてはならない」と言っておられるのですからね。大切な神の国にはいるには、幼な子のように素直に受けいれなければなりません。そして、イエス様は幼な子たちを抱いて、手をその上において祝福してくださいました。幼な子たちも母たちも、またにここにこ！いいなァと思いますね。

いのちの祈り 天のお父様、今もイエス様は、「来なさい」と招いてくださり、見えないみ手を頭ににおいて祝福してくださると信じます。

11月6日(金)



マタイ 18・1～3

そのとき、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか」。1節

大きくなっていくにつれて、「偉くなりたい」とみんな思うみたいです。この学校で一番偉いのは誰？この会社で一番偉いのは誰？この町で一番偉いのは誰？」なんていつも考えるようになるみたいです。だからお弟子さんたちもつい、「じゃ、天国で一番偉いのは誰なのですか？」とイエス様にたずねました。するとそこにイエス様は幼な子と呼んで、まん中に立たせて言われました。「心を入れかえて幼な子のように」と。わーい、幼な子がまた主役だ！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様が幼な子のようにならなければ、天国にはいることさえできないと言われた言葉を大切にします。

11月7日(土)



マタイ 18・4～6

この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。
4節

そもそも、「偉くなりたい、偉いことはいいことだ」と思うその心をまずはいれかえて、幼な子のようにならなければ、天国にはいることさえできません！そして、小さい幼な子は、偉そうにしたり、自分を人よりもよくできるからと高ぶってみたり、周りの人に命令してみたり、自分の思うようにいかなかったら怒ったりしないのです。つまり、いつも低い心、純真な思い、素直に人の言うことに耳を傾けている幼な子こそが、天国では一番偉いのです。

いのちの祈り 天のお父様、天国でいちばん偉いのが幼な子だと聞いてとてもうれしいです。自分を低くする心でいられますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マルコ 10・35～45

仕える生き方
人の子がきたのも、仕えられる
ためではなく、仕えるためであり、
また多くの人のあがないとして、
自分の命を与えるためである。

マルコ 10・45

目標

仕える生き方を身につける。

11月8日（日）

聖書
聖句

マルコ 10・35～36

イエスは彼らに「何をしてほしいと、
願うのか」と言われた。 36節

イエス様の弟子、ヤコブとヨハネは兄弟で
す。彼らは、ふたりでいっしょにイエス様のも
とにやってきて、「わたしたちがお願いするこ
とを、かなえてほしいです!」と言いました。
ふたりでいっしょにお願いするなんて、いった
いなんでしょうね。

イエス様は「何をしてほしいと、願うのか」
とやさしく聞かれました。あなただったら、イ
エス様に何をお願いしたいですか。また、いつ
もどんなお願いをしていますか。イエス様は、
あなたがどんなことをお願いするのか、耳をか
たむけておられるんです。

いの
祈り

天のお父様、イエス様がわたしの願いを聞き
てくださることを感謝します。イエス様がよ
ろこばれるお願いがしたいです。

11月9日（月）

聖書
聖句

マルコ 10・37～38

あなたがたは自分が何を求めている
のか、わかっていない。 38節

ヤコブとヨハネが何をお願いしたかという
と、「イエス様が王様になられたとき、右大臣、
左大臣にしてください!」。イエス様のつぎに
えらい大臣にしてほしい、というわけです。イ
エス様は、ふたりのお願いに耳をかたむけられ
ましたが、「自分が何を求めているのか、わかっ
ていない」と答えられました。

イエス様は、えらい王様になろうとしていた
わけではありません。神様の御心にしがって、
十字架に掛かろうとされていたのです。ヤコブ
とヨハネは、神様の御心より、自分がえらくな
りたい気持ちで頭の中がいっぱいみたい。

いの
祈り

天のお父様、わたしも自分のお願いだけで
頭がいっぱいになりやすいです。あなた
の御心を求めることができますように。

11月10日（火）

聖書
聖句

マルコ 10・38～40

わたしの右、左にすわらせることは、
わたしのすることではなく、ただ備
えられている人々だけに許されるこ
とである。 40節

イエス様は、「わたしの右、左にすわらせ
ることは、わたしのすることではないよ」と
ハッキリ言われました。父なる神様が決めら
れた人だけに許されるんだよ、と。神様が決め
ることなのに、人間がかってに決めてはいけ
ませんね。

わたしたちは、神様が決められた計画のな
かで生きています。あなたが素晴らしい人生
を歩むためには、神様の計画どおりに生きる
のがいちばんなのです。

いの
祈り

天のお父様、あなたはわたしに、いちばん
よい計画をたててください。あなた
のご計画に従っていけますように。

11月11日(水)



マルコ 10・41

十人の者はこれを聞いて、ヤコブと
ヨハネとのことで憤慨し出した。
41節

イエス様と、ヤコブとヨハネとのやりとりを
聞いていた、ほかの十人の弟子たち。「ヤコブ
とヨハネめ〜!」と怒りだしましたよ。へんな
お願いするなよ!と怒ったのではありません。
わたしたちだってえらくなりたいのに、自分た
ちだけ、えらくなろうとしたな!と怒ったので
す。弟子たち全員、えらくなりたいかったです
ね。みんな、自分のことだけ考えています。
神様の御心より、自分のことをいちばんに考
えていると、怒りやねたみが心にわいてきます。
神様によろこばれる生き方ができません。

いの
祈り 天のお父様、あなたの御心をいちばんにし
て、あなたによろこばれる生き方ができま
すように。

11月12日(木)



マルコ 10・42~43

しかし、あなたがたの間では、そう
であってはならない。 43節

えらくなりたい。つまり弟子たちはリー
ダーになりたかったのです。リーダーになっ
て、権力でみんなに言うことをきかせる、
支配する。それがリーダーだと弟子たちは
思っていました。しかし、イエス様は「あな
たがたの間では、そうであってはならない!
リーダーになりたい人は、仕える人になりな
さい」と教えられたのです。

神様を信じるリーダーは、えらそうに言う
ことをきかせてはいけません。かえって、
人々の話を聞いて仕えるのが、クリスチャン
のリーダーの姿なのです。

いの
祈り 天のお父様、えらそうなリーダーではなく、
あなたを信じる者として仕えるリーダ
ーになることができますように。

11月13日(金)



マルコ 10・44~45

人の子がきたのも、仕えられるため
ではなく、仕えるためであり、 45節

イエス様はつづけて言われました。リーダー
になりたい人は、すべての人の僕になりな
さい、って。これはまさに、イエス様がその
うに生きられたのです。イエス様は神の御子、す
べての人のリーダーです。しかし、僕となっ
てたくさんの人々に仕えてくださいました。い
つも、まずしい人や病気の人の世話をし、助け
ておられました。

イエス様が「仕えられるためではなく、仕
えるため」にきてくださったのですから、わた
したちもイエス様のように仕える生き方をし
たいですね。弟子たちの考えるリーダーとはぎ
やくの生き方、弟子たちもびっくり。

いの
祈り 天のお父様、イエス様のように、わたし
も仕える生き方ができますように。

11月14日(土)



マルコ 10・31

また多くの人のあがないとして、自
分の命を与えるためである。 45節

イエス様は、神の御子であられるのに、わ
たしたちの罪のみがわりに十字架にかかっ
てくださいました。イエス様がご自分の命を犠
牲にしてくださったので、信じるわたしたちが
永遠の命をいただけるのです。僕として仕
えてくださったイエス様は、命まで与えるため
に地上にきてくださったのです。

イエス様の仕える生き方は、与える愛でい
っぱいの生き方でした。仕えるって、愛を
与えることなんですね。あなたも、愛を
与える人になってください。それが仕
える生き方、ほんとうのリーダーです。

いの
祈り 天のお父様、イエス様のように愛を
与える人になりたいです。わたしは
どんなふうに愛を与えられるか
教えてください。



聖書
テマ
暗唱聖句

マルコ 10・46～52

切なる信仰

行け、あなたの信仰があなたを救った。

マルコ 10・52

目標

切なる信仰をもって祈り求める者となる。

11月15日（日）

聖書
マルコ

マルコ 10・46

テマイの子、バルテマイという盲人のこじきが、道ばたにすわっていた。
46節

バルテマイは、目の不自由な人でした。この時代は、目が不自由だと働くことができませんでした。道ばたにボツンとすわって、とおにかかる人にお金や食べ物をもぐんでもらうしかなかったのです。そんな彼の近くを、人々がワイワイ、ガヤガヤしながらとおります。バルテマイが「なんだろう？」と思ったら、どうやらイエス様がおられるというのです！

バルテマイにとって、これは思いがけない恵みでした。イエス様は、わたしたちが思いがけない時に近づいてくださるんです。

いの祈り

天のお父様、わたしが思いがけない時にイエス様が近づいてくださり、恵みをくださることを感謝します！

11月16日（月）

聖書
マルコ

マルコ 10・47

「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。
47節

イエス様が、とおられる！？ それを聞いたバルテマイは、叫びだしました。「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください！」これまで、彼を助けてくれる人はいませんでした。でも、救い主イエス様、このお方だけがわたしをあわれんで助けてくださるんだ！と心から信じて叫んだのです。

「イエス様、あわれんでください、助けてください！」と祈ったことがありますか。わたしを助けてくださるのは、イエス様しかいないんだ！って、信じて祈ってきたかな。

いの祈り

天のお父様、わたしをあわれんで助けてくださるのはイエス様だけです。本気で信じて祈っていきます。

11月17日（火）

聖書
マルコ

マルコ 10・48

多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた。
48節

バルテマイがあまりにも大きな声で叫ぶので、人々はびっくり。ちょっとあなた、やめなさいよ、黙りなさいよ…と、バルテマイがイエス様を呼ぶのをやめさせようと思いました。ところが、バルテマイはますます大声で「わたしをあわれんでください！」と叫びつづけたのです。

バルテマイは、イエス様に聞いていただくまで、あきらめませんでした。どんなに妨害されても、あきらめないでイエス様に叫びつづける信仰を教えられますね。

いの祈り

天のお父様、バルテマイのように、あきらめないでイエス様に祈りつづける信仰を与えてください。

11月18日（水）

聖書
聖句

マルコ 10・49

イエスは立ちどまって「彼を呼べ」と命じられた。 49節

「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください！」という声が、ついにイエス様にも聞こえました。イエス様は立ちどまってくださり、「彼を呼びなさい」と命じられたのです。人々はバルテマイに、「喜べ、おまえを呼んでおられるぞ」と言いました。

イエス様は、エルサレムにむかって道を急いでおられるところでしたが、バルテマイの叫びを優先してくださったのです。やめさせようとした人々と正反対ですね。人にかまってもらえないバルテマイの声を、イエス様は聞きもらしたりされませんでした。

いの祈り 天のお父様、イエス様はわたしの叫びも優先して聞いてくださることを感謝します！

11月19日（木）

聖書
聖句

マルコ 10・50～51

その盲人は言った、「先生、見えるようになることです」。 51節

やった！ イエス様が、わたしを呼んでくださった！ バルテマイは大喜び。踊りあがってイエス様のところにやってきました。イエス様が「わたしに何をしてほしいのか」と聞かれると、「先生、見えるようになること」と言いました。

目の見えない人が見えるようになるなら、これは奇跡です。バルテマイは、人にはぜったいできないことをお願いしました。人にはできないことも、救い主イエス様ならぜったいにできると信じてお願いしたのでした。

いの祈り 天のお父様、イエス様は、人にはできないことがおできになります！ 心から信じて祈っていきます。

11月20日（金）

聖書
聖句

マルコ 10・52

そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。 52節

イエス様は、バルテマイに言われました。「あなたの信仰があなたを救った」。イエス様は、バルテマイの信仰をととてもよろこばれ、ほめられたのです。その瞬間、バルテマイの目はたちまちいやされて、見えるようになりました！

わたしたちも、イエス様がよろこばれ、ほめてくださる信仰をめざしたいですね。人生はいろんな試練があるけど、バルテマイのように切なる信仰で！ イエス様に叫び、祈りつづけましょう。「あなたの信仰があなたを救った」と言っていたきたいですね！

いの祈り 天のお父様、わたしもバルテマイのように、イエス様がよろこんでくださる信仰を持つことができますように。

11月21日（土）

聖書
聖句

マルコ 10・46～52

すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。 52節

目が見えるようになったバルテマイ。見えるようになって、イエス様ありがとうございました、それでは！ とはなれて行ったのではありません。すぐにイエス様に従って行ったのです。イエス様の行かれるところについて行く弟子となったのです。

お祈りがきかれたら、イエス様に感謝することは大切。さらに、そこで終わるんじゃなくて、イエス様の恵みにこたえて従っていく人になりたいですね。それが、イエス様がいちばん願っておられることです。

いの祈り 天のお父様、わたしもバルテマイのように、イエス様の恵みにこたえて、イエス様に従っていくことができますように！

しゅうかくかんしゃ
収穫感謝



聖書
テーマ
暗唱聖句

使徒14・8～18
収穫は神の恵み
食物と喜びとで、あなたがたの
心を満たすなど、いろいろのめ
ぐみをお与えになっているので
ある。使徒14・17

目標

日々の食物を与えてくださる神
の恵みに感謝する。

11月22日（日）

聖書
聖句

使徒14・8～10
大声で「自分の足で、まっすぐに立ち
なさい」と言った。すると彼は踊り上
がって歩き出した。10節

今日は収穫感謝の日ですね。毎日のお食
事をかならず神様に感謝しましょう。感謝すべき
神様を知っているというのは、ほんとうにすば
らしいことです。

パウロとバルナバが、ルステラに来たときの
こと。生まれつき歩けない人が、パウロのお話
を聞いていました。この人は真の神様がおら
れることを知って信じました。パウロがその人
に「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と言
うと、なんとその人は歩き出しました！ 真の
神様を知るって、ほんとうにすばらしい。

いの
祈り

天のお父様、わたしはあなたが真の神様
だと知っています！ 日々の食事をありが
とうございます！

11月23日（月）

聖書
聖句

使徒14・11～13
ふたりに犠牲をささげようと思って、
雄牛数頭と花輪とを門前に持ってきた。
13節

生まれつき歩けない人が、歩けるようになった！
人々はおどろいて「神々が人間のすがた
になって、わたしたちのところにきたのだ
～！」と叫びました。たいへん、パウロとバル
ナバが神様だとかんちがいしています。偶像
礼拝をするゼウス神殿の祭司が、犠牲をささげ
ようと雄牛や花輪をもってきたのです。

日本でもそう、人でも物でも、なんでもすぐ
神様にしてしまいます。つい、いっしょに
「神！」って言いそうになるけど気をつけて。
ほんとうの神様以外は「神」とよばないように。

いの
祈り

天のお父様、神様はあなただけです。ほか
のものを神とよばないように、わたしの
心と言葉をおまもりください。

11月24日（火）

聖書
聖句

使徒14・14～15a
皆さん、なぜこんな事をするのか。
わたしたちとても、あなたがたと同
じような人間である。15節

パウロとバルナバは、自分たちが神様にさ
れて犠牲がささげられると聞いて、真っ青に
なって自分たちの上着を引きさき、人々のと
ころに行きました。そして、「なぜこんなこと
をするんですか！ わたしたちは、あなたがたと
同じ人間です！」と必死で話しました。

歩けない人を歩けるようにしたのは、神様
の力です。パウロとバルナバの力ではあり
ません。パウロたちは、自分たちがほめられ
るのではなく、神様だけがほめたたえられる
ことを願っていたのです。

いの
祈り

天のお父様、わたしがほめられるだけでなく、
神様だけがほめたたえられますように。

11月25日（水）

聖書
聖句

使徒14・15

…すべてのものをお造りになった生ける神に立ち帰るようと、福音を説いているものである。 15節

ルステラの人々は、たくさんの偶像を拝んでいました。それらはみんな、人間がつくったにせものの神々です。しかし、わたしたちが信じているお方は、人間をつくってくださった神様ですよね！ 天と地と海と、その中にあるものぜんぶを、神様がつくられました。パウロたちは、にせものの神を信じないで、真の神様を信じてほしい、と必死で伝えたのでした。

本物じゃなくても、気にせずなんでも拝んでしまうのが日本。すべてをつくられた真の神様を知ってほしいですね！ 祈ろう、伝えよう！

いのちの祈り 天のお父様、天地をつくり、わたしたちもつくってくださった真の神であるあなたを、伝えていけますように。

11月26日（木）

聖書
聖句

使徒14・16

神は過ぎ去った時代には、すべての国々の人が、それぞれの道を行くまにしておかれたが、 16節

神様は、まずイスラエルを選んで、神様の存在を教えてくださいました。イスラエルをとおして、ほかの国々も神様を知るためです。でも、ほかの国々はじぶんかつてに神様をつくって拝んで、真の神様を知ろうとはしませんでした。

でも、神様はそんな国々を、どうでもいいや…と思っておられたのではありません。ずっとずっと忍耐してくださっていたのです。わたしたちが神様を信じていない時も、信じるまで、ずっと忍耐してくださっていました。

いのちの祈り 天のお父様、わたしがあなたを信じるまで、ずっと忍耐させたことを、おゆるしください。ほんとうにありがとうございます！

11月27日（金）

聖書
聖句

使徒14・17

食物と喜びとで、あなたがたの心を満たすなど、いろいろのめぐみをお与えになっているのである。 17節

神様を知らない人々、信じない人にも、神様は雨をふらせてくださいます。それは、神様がいることを人々が知るためなのです。

なんで雨がふるんだろう。どうして季節があつて、食べ物のとれるんだろう。そうだ、きっと神様がおられるにちがいない。…そう気づいてくれたら、神様はどんなによろこばれることでしょう。気づいてほしい…神様はそう願って、今も雨をふらせ、食べ物をあたえつづけておられます。

いのちの祈り 天のお父様、雨も季節も食べ物も、みんなあなたがくださっています。どうか、あなたに気づく人がおこされますように。

11月28日（土）

聖書
聖句

使徒14・17～18

こう言って、ふたりは、やつのことで、群衆が自分たちに犠牲をささげるのを、思い止まらせた。 18節

パウロとバルナバを神様だと思いこんでいる人々をとめるのは本当にたいへんで、やつのことで犠牲をささげるのをやめさせたのでした。ふ～、やっとわかってくれた…、ヘトヘトだったでしょう。

日本も偶像礼拝をする国なので、ほんとうの神様をわかってもらうのはたいへんかもしれません。まず、わたしたちが日々の神様の恵みを感謝しましょう。あなたが神様へ感謝する姿を見て、偶像礼拝をやめる人が、きっとおこされていきます。

いのちの祈り 天のお父様、日々の食べ物、たくさんの恵みを感謝します。わたしをとおして、偶像礼拝をやめる人がおこされますように。

アドベント



聖書
テーマ
暗唱聖句

イザヤ9・1-7

預言されたメシヤ誕生

ひとりのみどりごがわれわれの
ために生れた、ひとりの男の子が
われわれに与えられた。

イザヤ9・6

目標

わたしたちのために生まれた救
い主を信じる。

11月29日(日)

聖書
聖句

イザヤ9・6

ひとりのみどりごがわれわれのた
めに生れた、ひとりの男の子がわれ
われに与えられた。 6節

今日から「アドベント」。イエス様のお誕生
を記念するクリスマスに向かって、心のじゅ
んぴをしていこう、という意味だよ。

神様がわたしたちを愛して愛して、あなたと
共にいたい！わたしからはなれないでほし
い！そう願って送ってくださったイエス様。

そのお誕生は、イエス様が生まれる700年も
前の聖書にはっきりと書かれていたんだよ。

そのイエス様が、わたしのためだったって、
あなたは信じますか？

いの
祈り

天のお父様、あなたがわたしを愛して、
イエス様をわたしのために送ってくだ
さったことを感謝します。

11月30日(月)

聖書
聖句

イザヤ9・1

苦しみにあった地にも、やみがなく
なる。 1節

2020年は、コロナウイルスが世界中ではやり、
たいへんな一年だったね。学校に行けなくなっ
たり、遊びたくても遊ぶ場所がなかったり、
大人の人はお仕事ができなかったり、それから
たくさんの方が亡くなりました。

ストレスがたまった人たちは怒りをぶつけ
あいました。

生きていれば、苦しみはいっぱいやってくる
けれど、その苦しみに勝つ力を持っている人
はそんなに多くないんじゃないかな。

その力、イエス様を信じたときに、持つこ
とができるようになるんだよ。

いの
祈り

天のお父様、苦しいことに勝つ力、イ
エス様によっていただけますように。

12月1日(火)

聖書
聖句

イザヤ9・2

暗やみの中に歩んでいた民は大い
なる光を見た。暗黒の地に住んでい
た人々の上に光が照った。 2節

イザヤの生きていた時代、ユダヤ人の国は二
つに分裂し、憎みあい、戦争をしていました。
そして、どちらの国も滅びてしまいました。そ
うなったのは、神様の言葉を聞かず、自分の良
いと思うものだけに心をうばわれていたから
でした。

神様の言葉を聞こうとしなければ、人の人生
も国の運命も、罪という真っ暗闇の中で、く
るってしまうことを、聖書は教えてくれます。

でもその中にも、神様は光を照らしてくだ
さる。それがイエス様だよ、ということです。

いの
祈り

天のお父様、罪で真っ暗なわたしたちの
人生に、イエス様という光をくださり
感謝します。

12月2日（水）

聖書
聖句

イザヤ9・3~4

刈入れ時に喜ぶように、獲物を分か
つ時に楽しむように、あなたの前
に喜んだ。 3節

「ミデヤンの日」というのはね、ギデオン
という人がたった300人で13万人の敵を倒し
たお話のことだよ。すごい出来事だよな！？

でも、それどころではなく、イエス様はこの
地球にいるすべての人のために来て、悪魔と、
死の力に勝ったんだ。どんなにか大きな勝利、
どんなにか大きな喜びだろう！

そして、その喜びを分け合うためには、あ
なたや、あなたのまわりの人もイエス様を信じ
る人の輪の中に加わることがたいせつなんだ
よね。

いのちの祈り 天のお父様、みんなでいっしょに、悪魔
に勝たれたイエス様の喜びを分け合え
ますように。

12月3日（木）

聖書
聖句

イザヤ9・5

すべて戦場で、歩兵のはいたくつと、
血にまみれた衣とは、火の燃えくさ
となって焼かれる。 5節

戦争はないほうがいいはずなのに、なんで起
きてしまうんだろう。ある人は国のせいとか、
宗教のせいだと言います。でも、聖書の言う
ことをよく考えてみて。

戦争は、わたしたちの生まれつきの心の中
にあって、だれかのものを欲しいと思ったり、
だれかのことを嫌いだと思ったりする人同士
の罪がふくらんで起きるのです。

イエス様は、奪ったり、欲しがったり、傷つ
けあう罪の心を滅ぼすために来られたのです。

あなたの罪、もう焼き尽くしてもらった？

いのちの祈り 天のお父様、罪を滅ぼすイエス様の力
で、わたしの罪も焼き尽くしてください。

12月4日（金）

聖書
聖句

イザヤ9・6

その名は、「霊妙なる議士、大能の
神、とこしえの父、平和の君」とと
なえられる。 6節

イエス様はね、どこかの遠い国のエラそうで
信用できない王様ではないんだ。

聖書はイエス様のことを、いちばん近くにお
られる方、あなたが思う以上の力、思う以上
の安心を与えてくださるお方だって言ってい
るよ。だから、どうしたらいいかわからない時
はイエス様に聞けばいいし、勇気が欲しいとき
は力をもらえばいいんだね。

今日も、いっしょにいてくださるイエス様を
信じて、すごしてくださいね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様がわたしのいちば
ん近くにいてくださることを信じます。

12月5日（土）

聖書
聖句

イザヤ9・7

今より後、とこしえに公平と正義と
をもってこれを立て、これを保たれ
る。 7節

「今より後」はね、イエス様が来てからずつ
と、という意味です。しかも永遠にだって。

ユダヤ人は、神様が自分の国だけを選んでく
れたと思っていた。でも、イエス様が来て
からはちがったね。2000年以上たって、世界中
の、イエス様を救い主と信じるすべての人が神
様に選ばれた人、救われた人になったのです。
そう、あなたも。

これが神様の公平と正義。そのお約束は、
永遠に変わることがなく続いていくんだよ。

いのちの祈り 天のお父様、わたしも、イエス様を信じ
て、あなたの約束をいただいたことを
感謝します。



聖書
テーマ
暗唱聖句

イザヤ 40・27-31

主を待ち望む者の力
主を待ち望む者は新たな力を
得、わしのように翼をはって、
のぼることができる。

イザヤ 40・31

目標

主を待ち望むことによる力を
経験する。

12月6日(日)

聖書
聖句

イザヤ 40・31

主を待ち望む者は新たな力を得、
わしのように翼をはって、のぼること
ができる。 31節

ただぼ〜っと、「なんか起こらないかな〜」
と待つだけでも、「いいないいなほしいな〜」
と望むだけでなく、望みながら待つ。これが
実はとってもむずかしい！たぶんほとんどの
人はそのどっちかだけかも…。

そこにはちょうど「じつとがまんすること」
と「集中すること」が必要だから。

しかも、まわりの人がみんなあきらめたよう
に見える中で、待ち続けられる人は、神様から
「ああ！待っていてよかった！」と思うような
力をいただけるんだ！できるかな！？

祈り

天のお父様、望みながら待つ、というこ
との大切さを教えてくださいありがとうございます。
うございます。

12月7日(月)

聖書
聖句

イザヤ 40・27

何ゆえあなたは、「わが訴えはわが
神に顧みられない」と言うか。27節

神様がいらっしゃるんだっとなんでこんなことが
起きるんだ！お願いだって聞いてくれなかつ
たじゃないか！…そんな声があちこちから聞
こえない？

でも、実は、神様が人に背を向けて知らんぷ
りされたのではなく、人が神様のほうを向いて
いないだけなのです。神様を見ない、神様の声
を聞かない、それが人間の本当の姿です。

神様のことを知っている人さえ神様のことを
悪く言うようなときでも、神様は、人に向
かって「わたしの民よ」と呼びかけ続け、なん
とかご自分のほうを向くようにと願っていて
くださることを忘れないでください。

祈り

天のお父様、あなたの声を聞けるわたし
でいることができますように。

12月8日(火)

聖書
聖句

イザヤ 40・28

あなたは知らなかったか、あなたは
聞かなかったか。 28節

今、この地球で、聖書に書かれた神様のこ
とをぜんぜん聞いたこともない人ってどれく
らいいるんだろう？

そういう、神様のことをぜんぜん知らない
人が、神様以外の何かを信じているのは不思議
な光景ではないけれど、さあ、あなたはどうで
しょう。お友達が占いやおまじないをやっ
ているから、みんなで神社にお参りに行ってい
るから、いっしょにやってもいいや〜、なんてこ
とないですか？

「いつでも神様を知っているあなた」「神様が
なんと言っておられたかをそのまま行動に表
せるあなた」でいてください。

祈り

天のお父様、あなたのことを知っている
人間らしく生活していきます。

12月9日（水）



イザヤ 40・28

主はとしえの神、地の果の創造者であって、弱ることなく、また疲れることなく、その知恵ははかりがたい。
28節

自分に悲しい、苦しいことが起きたとき、どんなふうに感じますか？きっとこの悲しみや苦しみは、ほかのだれもわかってくれないんだ…そんなふうに思うと、なんだかよけいに胸がズキンと痛くなってしまうよね。

そんなときは、神様がこの世界を造られたこと、すべての生きる者を造られ、あなたを地球上に生まれさせたことを思い出してください。

あなたの悲しみも意味のあることに変えてくださる神様は、ちゃんと知っておられるよ。

祈り 天のお父様、世界を造り、わたしを造られたあなたが、すべてを意味あることにしてくださると信じます。

12月10日（木）



イザヤ 40・29

弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる。
29節

体が疲れちゃったときは、おいしいものをもりもり食べてぐっすり眠れば元気になることも多いけど、なんだか、心の中までぐったりすること、ないですか？

どんなに強そうに見える人も、どんなに頭がいい人も、自分のがんばりだけではどうすることもできないようなときがあります。

でも、神様はそうじゃない。休むことも眠ることもなく、人を助けるのに忙しすぎることもない。いつでもあなたを助け力づけることができるのです。神様から力をもらおうよ！

祈り 天のお父様、わたしの弱いときにわたしに力をくださるのはあなたです。

12月11日（金）



イザヤ 40・30

年若い者も弱り、かつ疲れ、壮年の者も疲れはてて倒れる。
30節

ここで言う、「弱り、疲れ」っていうのは「なまける」っていう意味らしいんだ。

やろうやろうと思いがち、もうヤダ～だる～いなんて、やる気がちっとも起きない！

それはね、神様に対するあなたのナマケの心から来ていて、そんなことにも気づけない弱さが自分にあるってことなんじゃないかな。

力いっぱい生きるって、やっぱり自分のやる気だけではだめってこと、知ってください。

あなたの目の前にあることは、神様が与えてくださったものだと思え止めるところから始めたいよね！

祈り 天のお父様、わたしの人生はあなたが与えてくださったものです。弱い私に力をください。

12月12日（土）



イザヤ 40・31

主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。
31節

わしはね、飛ぶときに羽をばたばたさせないで、大きな風に向かって羽を広げ、その風に乗るようにしているんだよ。つまりね、「疲れないう飛び方」をよく知っている鳥ってことだね！

そんなふうに「疲れないう生き方」を知っている自分になりたいよね。神様の力、神様が自分になさろうとしていること、神様の願いをよく知って、その風に乗って生きていくことができたなら、なんてすばらしいだろう！

祈り 天のお父様、わしからも生き方を教えられました。あなたの風によって羽を広げ、強く生きていけますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 1・18 - 25

ヨセフへの告知

その名をイエスと名づけなさい。
彼は、おのれの民をそのもろもろ
の罪から救う者となるからであ
る。 マタイ 1・21

目標

救い主として誕生されたキリス
トにより、罪赦され、救いをいた
だく。

12月13日(日)

聖書
聖句

マタイ 1・18～25

彼は、おのれの民をそのもろもろの
罪から救う者となるからである。21節

あなたも「待って、待って、待って、待って
…やっと！」ということがありましたか？ イス
ラエルの人たちも、「メシヤ（救い主）の誕生」
を「待って、待って、待って」いたのです。そ
んなスペシャルな救い主のお誕生でしたから、
いろいろと「？」ハテナ？と首をかしげること
もいっぱいでした。ヨセフさんは、「？」だけで
なく、すごーく悩みに悩んだのですね。でも、
主の使いによってみごとに解決されました。

いの
祈り

天のお父様、「罪から救う者となる」イエ
ス様のお誕生を感謝します。わたしも罪
をゆるされて救われたいです。

12月14日(月)

聖書
聖句

マタイ 1・18～19

母マリヤはヨセフと婚約していたが、
まだ一緒にならない前に、聖霊に
よって身重になった。 18節

まずは最初の「？」ですね。まだちゃんと
結婚もしていないのに、婚約していただけなの
に、マリヤさんのお腹が大きくなってきた！
聖書には「聖霊によって」と書いてあります。
神様の聖い霊によって、赤ちゃんイエス様がマ
リヤのお腹に宿ったのでした！ でもそんなこ
とをまだ全然知らなかったヨセフさんはとても
悩んで、苦しんでマリヤと縁を切ろうと心に
決めました。マリヤはひと言も言っていなかつ
たのですね。

いの
祈り

天のお父様、聖霊によってマリヤのお腹に
宿られた救い主イエス様は、本当に清いお
方だとよくわかります。

12月15日(火)

聖書
聖句

マタイ 1・20～21

ダビデの子ヨセフよ、心配しないで
マリヤを妻として迎えるがよい。20節

マリヤのあつい信仰を神様はきっと喜ばれ
たにちがいありません。そしてあれこれ思いめ
ぐらす、心優しいヨセフのために神様が主の使
いをつかわして告げさせます。「恐れることはな
い、心配しないでいいのだよ」。これはいつでも
神様が人にあらわれてくださる時の決まり文句
です！ マリヤは聖霊によって子を宿している、
その子は罪からの救い主だから、安心してマリ
ヤを妻として迎えるがよいと。ホッとしました
ね。

いの
祈り

天のお父様、わからなくて悩む時も、あ
なたは優しくわかるように教えてくださ
り、心より感謝いたします。

12月16日（水）



マタイ 1・22

すべてこれらのことが起ったのは、
主が預言者によって言われたことの
成就するためである。 22節

「ヘー、この赤ちゃんイエス様は預言されて
いて、生れてきたのかあ」って、驚きまし
たか？ 何年くらい前にどんな預言者によって、
告げられていたと思いますか？ イエス様誕生
の700年前でしたよ！ その預言者の名前は「イ
ザヤ」です。イザヤ7・14を開いてみてくださ
い。ホントウニ！！ 私たちは明日のことも、いえ、
今日のことで何があるかわからないのに！
神様の預言（み言葉）のスゴサ！

いの
祈り

天のお父様、あなたのみ言葉、預言者に
語らせた預言は、100%その通りになる
ことに、改めてオドロキます！

12月17日（木）



マタイ 1・23

見よ、おとめがみごもって男の子を
産むであろう。その名はインマヌエル
と呼ばれるであろう。 23節

「今度生れる子はボクの弟かな？ 妹か
な？」お母さんのお腹に宿って五か月くらいし
たら、「男の子ですよー」とか「女の子です
よー」ってわかるのですね！ でもここは700年
も前から、「男の子ですよー」って記されてま
す。そしてとても素敵なお名前ですね。「インマ
ヌエル」イスラエルの人の言葉でヘブル語なの
です。これを日本語に訳すと、「神われらと共に
います」となります。何と力強くて良いお名前
でしょう！

いの
祈り

天のお父様、やっぱり、救い主イエス様の
お誕生は、どんなにかスペシャル（特別）
だったかよくわかります。

12月18日（金）



マタイ 1・24～25

ヨセフは眠りからさめた後に、主の
使が命じたとおりに、マリヤを妻に
迎えた。 24節

あなたももしかして、夢の中で、神様の声を
聞いたりしたことありますか？ ヨセフは、夢
の中で、これらのことを知らされ、また神様か
らの命令を聞いたのでした。「なあんだ、夢だっ
たんだよね」って、忘れてしまったり、放って
おいたりはしませんでした。しっかりと心の
奥で受け止めました。そして、「主の使が命じ
たとおりに、マリヤを妻に迎えた」のです。マ
リヤもイエスもヨセフの信仰に守られまし
た。

いの
祈り

天のお父様、あなたのなさることは少しの
狂いもないことを覚えます。どこまでもあ
なたを信じぬいていきます。

12月19日（土）



ヨハネ 1・24～34

見よ、世の罪を取り除く神の小羊。
29節

「主の道を備えよ」と荒野で叫んでいたバプ
テスマのヨハネ登場。ヨハネは「わたしは水で
バプテスマを授けるが、わたしのあとにもっと
すぐれた方が来られる」と言っていました。つ
いにヨハネはイエス様が自分の方にこられるの
を見てイエス様を紹介しました。「見よ、世の
罪を取り除く神の小羊」と！ イエス様は30歳
になって、世の人々の前にあらわれられました。
ヨハネの紹介はまさにズバリでした。

いの
祈り

天のお父様、わたしも罪を悔い改めて赦
していただいて、罪から、永遠の滅びから
救われて毎日過ごしたいです。

クリスマス



聖書
テーマ
暗唱聖句

マタイ 2・1～12

王なるキリストを迎える
ユダヤ人の王としてお生れに
なったかたは、どこにおられます
か。 マタイ 2・2
キリストを王として心に迎え
る。

目標

12月20日(日)

聖書
聖句

マタイ 2・1～12

ユダヤ人の王としてお生れになった
かたは、どこにおられますか。2節

メリー・クリスマス！ クリスマスおめでとう
ございます！ きょうはクリスマス前の日曜日
です。全世界の教会でイエス様のお生れを記念
して、クリスマス礼拝がもたれますよ！ わたし
もその中のひとりになれて幸せ！と思うで
しょう？ クリスマスの幸せ、それはわたした
ちが罪から救われる喜びと、イエス様をわたし
たちの心に「王様」としてお迎えできること
です。わたしの心と人生をすばらしく治めていた
だけののですから 幸せです。

いの
祈り

天のお父様、イエス様を罪からの救い主
と共に王様としておつかわしくださって
心よりありがとうございます。

12月21日(月)

聖書
聖句

マタイ 2・1～2

わたしたちは東の方でその星を見
たので、そのかたを拝みにきました。
2節

教会学校や教会の礼拝に来るのに、あなた
はどれくらい時間がかかりますか？ ゼロ分！
教会に住んでいればね！ 歩いて10分、チャリ
で30分、車で一時間、もっとかけて来る人も
いる？ エライ！ ここに東の方でその星、ユ
ダヤ人の王としてお生れのメシヤのしるしを見
て拝みにきた東方の博士さんたちは、何と一年
以上もかけて、はるばるやってきたのです！
感動ですね。それほどにもその方に会いたかつ
たのですね！

いの
祈り

天のお父様、博士たちに負けないくらい
教会に励んでしっかりお話しを聞いてイ
エス様とお会いしたいです。

12月22日(火)

聖書
聖句

マタイ 2・3～6

彼らは王に言った、「それはユダヤの
ベツレヘムです」。5節

「ユダヤ人の王だと?! わたし以外に一体だれ
が王なんだ?!」と、その時の王様ヘロデは考
えて、心が不安になってきました。エルサレム
の人たちも同じく不安に思いました。そこで学者
たちを全部集めて、キリストはどこにうまれる
のかとたずねると、「ユダヤのベツレヘムです。
預言のとおりです」との返事。王だから宮殿か
なと思っ、博士たちはやってきたのですが、
そうではなくベツレヘムだとわかりました。

いの
祈り

天のお父様、クリスマス感謝いたしま
す。イエス様のお誕生の地名までがちゃ
んと預言されていたことに、またまた
感動してしまいます。

12月23日（水）



マタイ 2・7～8

行って、その幼な子^{おきなこ}のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも^{おが}拝みに行くから。
8節

ヘロデ王^{おう}は、こっそり博士^{はかせ}たちを呼んでたずねました。「その星^{ほし}はいったい、いつごろ現れたのか？ どのような星^{ほし}だったのか？」などと。そして、博士^{はかせ}たちをベツレヘム^{べつれへむ}に行くようにとつかわしました。エルサレム^{えるさるむ}から8キロばかりです。歩いて2時間もあれば行けます。でもヘロデも学者^{がくしや}たちもだれもエルサレム^{えるさるむ}から行く人^{ひと}はありませんでした。「見つけたら知らせてくれ、あとから拝^{おが}みに行くから」と。

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、ヘロデ王^{おう}も律法^{りっぽう}をよく知^しっている学者^{がくしや}たちも本当^{ほんとう}の礼拝者^{れいはいしや}ではありませんでした。考^{かんが}えさせられます。

12月24日（木）



マタイ 2・9～10

彼^{かれ}らはその星^{ほし}を見て、非常^{ひじょう}な喜^{よろこ}びにあふれた。
10節

さて、博士^{はかせ}たちは…「わかりました、感謝^{かんしや}です、そのようにいたしましょう」と王^{おう}に答^{こた}えて、「さあ、出^{しゅつ}発^{ぱつ}だ！ 目指^{めざ}すはベツレヘム^{べつれへむ}！」と出かけようとする！「おお、あの星^{ほし}ではないか」。博士^{はかせ}たちは目^めを輝^{かがや}かせて、先^{さき}に進^{すす}んでいく星^{ほし}を見ながら、ついて行くと、「お！ 止^とまった、あの家^{いえ}の上^{うへ}にとどまったぞ」。そうです。幼な子^{おきなこ}イエス様^やのおられる所^{ところ}でした。博士^{はかせ}たちの胸^{むね}はほんとうに喜^{よろこ}びにはち切れそうでした。

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、王^{おう}なる救^{すく}い主^{ぬし}を拝^{おが}める！と喜^{よろこ}びにあふれた博士^{はかせ}たちのようにわたしも期待^{きたい}に満^みちて教会^{きやうかい}にいけます。

12月25日（金）



マタイ 2・11

宝^{たから}の箱^{はこ}をあけて、黄金^{おうごん}・乳香^{にゅうこう}・没薬^{もつやく}などの贈^{おく}り物^{もの}をささげた。
11節

喜^{よろこ}びと感謝^{かんしや}でふるえるような心^{こころ}で、博士^{はかせ}たちは家^{いえ}にはいらせてもらったことでしょう。母マリヤのそばに、まだ2歳^{さい}にもなっていない幼な子^{おきなこ}に会^あいました！ 彼^{かれ}ら、大^{だい}の男^{おとこ}たちが、そんな小^{ちい}さな幼な子^{おきなこ}の前^{まえ}に、ひれ伏^ふして拝^{おが}んだのです。だって、王^{おう}様^{さま}なのですから。また大切^{たいせつ}に持^もってきた宝^{たから}の箱^{はこ}をあけて、イエス様^やにふさわしい贈^{おく}り物^{もの}、黄金^{おうごん}・乳香^{にゅうこう}・没薬^{もつやく}などをささげました。あなたも宝^{たから}をおささげできます？

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、非常^{ひじょう}な喜^{よろこ}びにあふれて王^{おう}なるイエス様^やに会^あい、拝^{おが}み、ささげた博士^{はかせ}にならう礼拝^{れいはい}をささげます。

12月26日（土）



マタイ 2・12

夢^{ゆめ}でヘロデのところに帰^{かえ}るなどのみ告^つげを受けたので、他^{ほか}の道^{みち}をとって自^じ分の国^{くに}へ帰^{かえ}って行^いった。
12節

「じゃ、ヘロデ王^{おう}に知らせにエルサレム^{えるさるむ}經由^{けいゆ}で帰^{かえ}るか？」「いやいや、神^{かみ}様^{さま}は、夢^{ゆめ}でヘロデのところには帰^{かえ}るなど告^つげてくださった。だから、エルサレム^{えるさるむ}に戻る必要^{ひつよう}はないよ」。そういうわけで、彼^{かれ}らは神^{かみ}様^{さま}のみ告^つげに從^{したが}って、他^{ほか}のちがう道^{みち}を通^{とお}って、またまた、長い長い旅路^{たびじ}についたのです。イエス様^やにお会^あいしたら、もう今までの古^{ふる}い道^{みち}は歩^{あゆ}まない人^{ひと}になるのです。イエス様^やと共に、新^{あたら}しい人生^{じんせい}に進^{すす}むのです。

いの祈り 天^{てん}のお父様^{とうさま}、イエス様^やを私^{わたし}の心^{こころ}に王^{おう}様^{さま}としてお迎^{むか}えします。すべてをご支^し配^{はい}していただく新^{あたら}しい人生^{じんせい}を感謝^{かんしや}します。

ねんまつかんしや
年末感謝



せいしよ
聖書
テーマ
あんしょうせい
暗唱聖句

しへん
詩篇118・1～6

めぐ
恵みへの感謝

しゆかんしやしゆめぐ
主に感謝せよ、主は恵みふかく、

そのいつくしみはとしえに
絶えることがない。詩篇118・1

もくひょう
目標

いちねんめぐおほかみかんしやし
一年の恵みを覚え、神に感謝をさ
さげる。

12月27日（日）

せいしよ
聖書

しへん
詩篇118・1

しゆかんしやしゆめぐ
主に感謝せよ、主は恵みふかく、その
いつくしみはとしえに絶えることが
ない。1節

こんしゅうことしさいごしゅうことしいねん
今週は今年最後の週ですね。今年一年、ど
んな年だったかな？ あんなうれしいことが
あったな、こんな悲しいこともあったな、こん
な体験したな、びっくりすることがあったな…
など。いろんなことがあったと思いますが、あ
なたが笑っている時も、泣いている時も、神様は
いつも共にいてくださったことを知っています
か。

ねんまつおおたいせついちねんふ
年末の大そうじも大切だけど、一年を振りか
える時間を持つこともすごく大切なことです。
なんとなく一年を終えるのではなく、神様がく
ださった恵みを思いおこしてみましょう。

いの
祈り

てんとうさまこんしゅうとくことし
天のお父様、今週は特に、今年あなたが
くださった恵みを思いおこすことができ
ますように。

12月28日（月）

せいしよ
聖書

しへん
詩篇118・1

しゆかんしやし
主に感謝せよ。

せつ
1節

かみさまめぐおも
神様がくださった恵みを思いおこす、という
のは神様に心から感謝をするということ。

イスラエルの民は、かつてエジプトの国で
奴隷として生活をしていました。身体がどんな
につらくてもたくさん働かせられたり、時には
いじめられたり、本当に苦しい生活をしていま
した。しかし、神様は苦しんでいるイスラエル
をご覧になって、エジプトから脱出させてくだ
さったのです。イスラエルの民は、この恵みを
わすれず、神様に感謝する歌をうたうようにな
りました！ それがこの詩篇118篇なんです。恵
みをもらいっぱなしにしないで、神様に感謝を
ささげる人になってください。

いの
祈り

てんとうさまめぐ
天のお父様、あなたからの恵みをわすれ
ず、感謝をささげることができますよう
に。

12月29日（火）

せいしよ
聖書

しへん
詩篇118・1

しゆかんしやしゆめぐ
主は恵みふかく、そのいつくしみはと
こしえに絶えることがない。1節

かみさまかんしやりゆう
神様に感謝するのは、ほかにも理由があるん
です。それは、「主は恵みふかい」お方だから！
「恵み」というのはね、本当はわたしたちがも
らえないはずのものを、神様が与えてくださる
ことです。

かんが
考えてみれば、わたしたちはお願いもしてい
ないのに食べ物があるし、着る物もあるし…、
そのほかにも、いろ～んなものが与えられてい
るでしょう。お願いをしていないのに、いろん
なことを乗り越えて来たでしょう。それは偶然
ではないのです。わたしたちの気づかないところ
で、神様が恵みをくださっていたのです。

いの
祈り

てんとうさましとき
天のお父様、わたしが知らない時にも、
たくさんの恵みをくださっていたことを
心から感謝します。

12月30日(水)

聖書
聖句

詩篇118・1

主は恵みふかく、そのいつくしみは
とこしえに絶えることがない。1節

さらに神様は、「いつくしみは絶えることが
ない」お方です。言いかえると、神様はけっし
てお約束を変えたりなさらず、永遠に守ってく
ださるお方、ということ。

よく考えてみてください。イエス様の
十字架はわたしの身がわり、と信じた人は必ず
天国に行くことができますね。これは神様がわ
たしたちにくださったお約束。でも、もし神様
が「やっぱりやめた！」なんて言われたら、と
んでもないことになります。でも、神様はぜっ
たいにそんなことはされません。わたしたち
人間は約束をやぶることがあっても、神様のい
つくしみは永遠に変わらないのです。

祈り

天のお父様、けっして変わらないあなた
のいつくしみを心から感謝します。

12月31日(木)

聖書
聖句

詩篇118・1~4

主をおそれる者は言え、「そのいつく
しみはとこしえに絶えることがない」
と。4節

今日は一年でさいごの日です。わたしたちが
することは、神様を心から賛美すること！
今日読んだ箇所は、「イスラエルは言え、アロ
ンの家は言え、主をおそれる者は言え！」と、
くりかえし書かれていますね。つまり、神様を
信じる者みんなで賛美をささげよう！という
ことなんです。

ひとりで賛美するのも良いことなのですが、
みんなで賛美するのはもっとすばらしいこと
です。神様というお方は、世界中の人々に賛美
されるべきお方。さあ、力いっぱい神様に感謝
の賛美をささげましょう！

祈り

天のお父様、あなたを賛美します。世界中
で、神様だけが賛美されますように。

1月1日(金)

聖書
聖句

詩篇118・1~5

わたしが悩みのなかから主を呼ぶと、
主は答えて、わたしを広い所に置か
れた。5節

新年おめでとう！とつぜんですが、あなた
は、悩んだことがありますか？「ああどうしよ
う…」「困ったなあ」などなど、ハ〜…とため
息をついたこと、あるでしょうか。

今年もきつと、悩む時があるでしょう。そん
な時、神様にお祈りして呼びかけると、神様は
かならず助けてくださるお方です。「広い所」
というのは、神様があなたを悩みから救い出し
て、守ってくださる場所のこと！誰よりもま
ず、神様にお祈りして相談してください。神様
は、あなたが呼ぶのを待っておられます。

祈り

天のお父様、悩んでいる時、あなたが応
えてくださることを、もっと知ることが
できますように。

1月2日(土)

聖書
聖句

詩篇118・1~6

主がわたしに味方されるので、恐れる
ことはない。人はわたしに何をなし得
ようか。6節

神様がわたしの味方。これってすごいことだ
と思いませんか？わたしたちは、なにか困って
いる時、「だいじょうぶだよ、わたしはあなたの
味方」と言ってもらえたら、うれしくて力がわ
いてきますね。でも、誰に言われるより神様が
そう言ってくださったなら、何にもおそれる必要
はありません。たとえ、あなたのことを悪く言う
人がいたとしても、いやなことをされても、神様
はあなたの味方。これも神様のお約束。神様の、
あなたへのいつくしみは、永遠に変わることが
ありません。

祈り

天のお父様、あなたがわたしの味方であ
ることが、けっして変わらないお約束で
あることを心から感謝します。